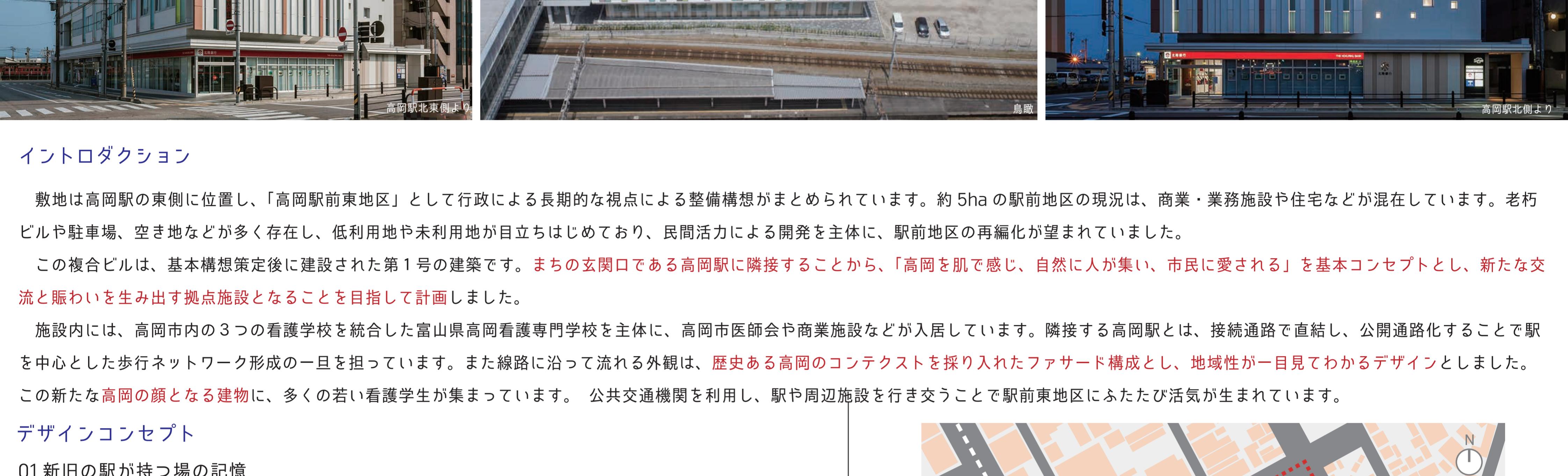


名称由来：「空」、それは果てしない未来。
建物の外壁に使われる土蔵をイメージした白は、雲。
その向こうの青い「空」へ。
高岡のまちが、この建物に集う人々が、
どこまでも高く羽ばたこうとする強い思いをこの名前に込めています。



イントロダクション

敷地は高岡駅の東側に位置し、「高岡駅前東地区」として行政による長期的な視点による整備構想がまとめられています。約 5ha の駅前地区の現況は、商業・業務施設や住宅などが混在しています。老朽ビルや駐車場、空き地などが多く存在し、低利用地や未利用地が目立ちはじめており、民間活力による開発を主体に、駅前地区の再編化が望まれていました。

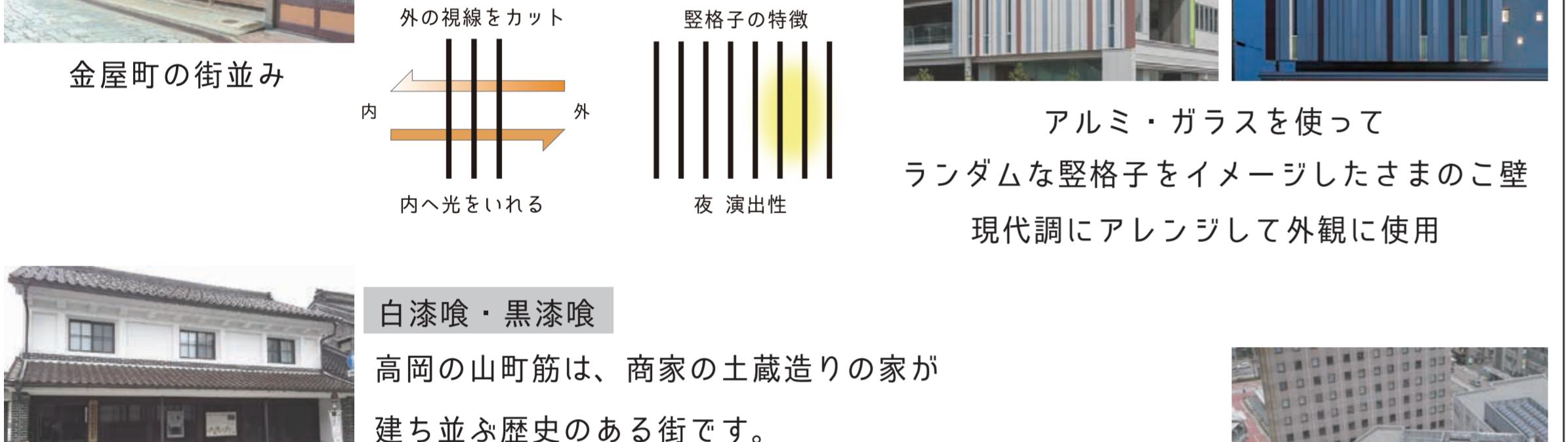
この複合ビルは、基本構想策定後に建設された第1号の建築です。まちの玄関口である高岡駅に隣接することから、「高岡を肌で感じ、自然に人が集い、市民に愛される」を基本コンセプトとし、新たな交流と賑わいを生み出す拠点施設となることを目指して計画しました。

施設内には、高岡市内の3つの看護学校を統合した富山県高岡看護専門学校を主体に、高岡市医師会や商業施設などが入居しています。隣接する高岡駅とは、接続通路で直結し、公開通路化することで駅を中心とした歩行ネットワーク形成の一環を担っています。また線路に沿って流れる外観は、歴史ある高岡のコンテキストを取り入れたファサード構成とし、地域性が一目見てわかるデザインとしました。

この新たなる高岡の顔となる建物に、多くの若い看護学生が集まっています。公共交通機関を利用し、駅や周辺施設を行き交うことで駅前東地区にふたたび活気が生まれています。

デザインコンセプト

01 新旧の駅が持つ場の記憶



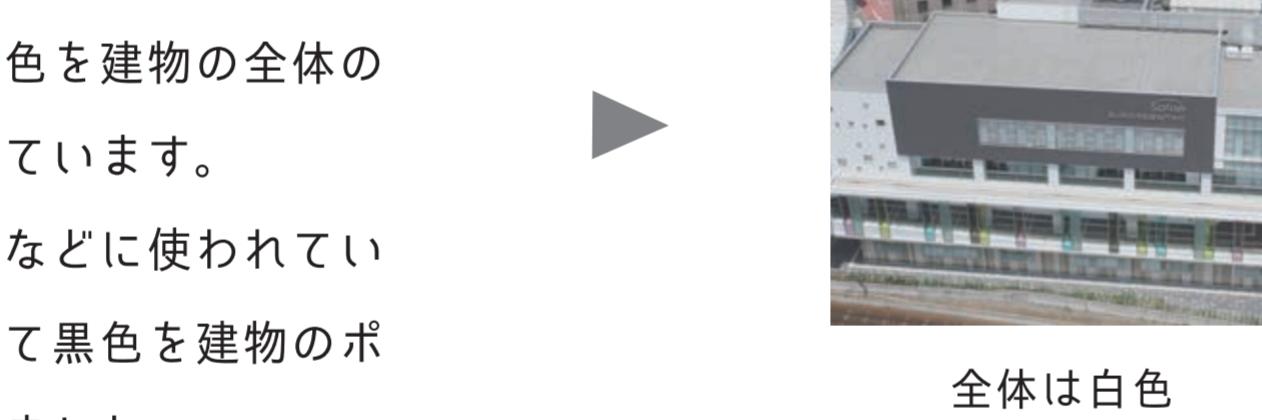
----- 高岡駅前東地区（約 5ha）

02 高岡古来のデザイン

高岡の歴史のある街並みや建物の要素を取り入れ、高岡らしさを感じるデザインをつくりました。

さまのこ
高岡では堅格子のことを「さまのこ」といいます。金屋町や吉久では、さまのこが続く街並みが見られます。

外の規範をカット
内へ光をいれる



堅格子の特徴
夜 演出性

アルミ・ガラスを使って
ランダムな堅格子をイメージしたさまのこ壁

現代調にアレンジして外観に使用

04 看護専門学校らしい清潔感

看護師をイメージした「白色」を建物のイメージとしています。白色は、白衣の持つ「清潔感、安心感、優しさ」を表現しており、透き通った明るい空間としています。

また、大きなガラス面を設けることで、建物の透明感を生かしたデザインとともに、学生の賑わいをまちに発信しています。



清潔感のある白色と透明感のある空間

05 高岡七夕文化

高岡では江戸時代より七夕祭りが行われていたと言われています。毎年、高岡駅前周辺ではジャンボ七夕や市民が作った七夕が街中に飾られ、夏の七夕祭りを盛り上げています。夜は七夕がライトアップされ夜空を彩ります。

建物には色ガラスとランダムに正方形の窓や開口を設け、七夕祭りの賑やかでカラフルしたイメージをデザインしています。色ガラスは七夕祭りの短冊をイメージしており、ランダムな窓や穴は、天の川をイメージして作られています。



短冊をイメージした色ガラス
天の川をイメージしたランダムな窓・穴

03 地域資源を建築の彩として活用

高岡の伝統産業として「高岡銅器」があります。

高岡発祥の銅を思わせるデザインとなるように、

アルミに銅色焼付で外壁のポイントに採用。

高岡の地場産業として「アルミ」産業があります。

アルミ素材を外壁やポイントのフィンに採用。

高岡にはガラス加工の技術のある企業があります。

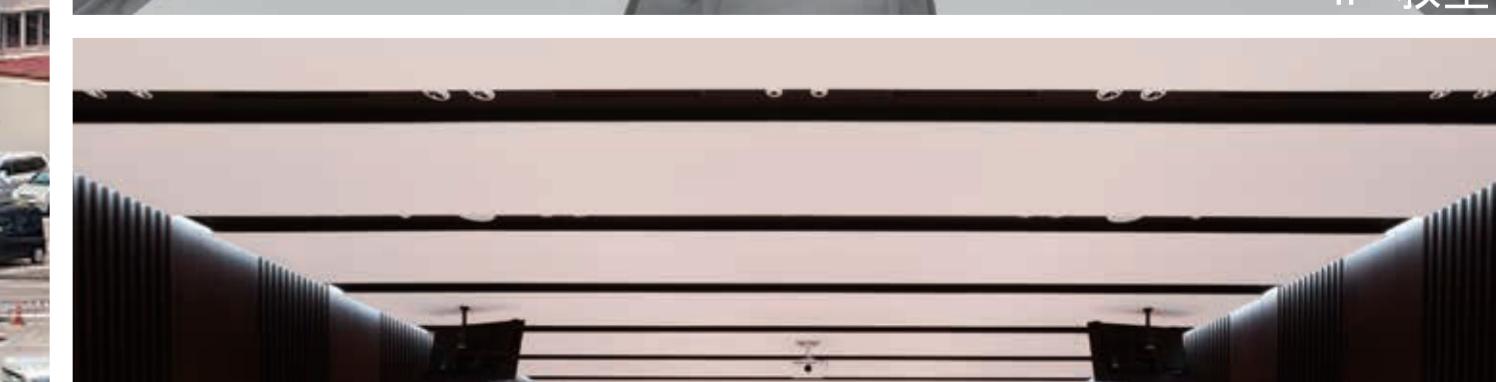
建物に彩りを与える特殊色硝子を採用。



建物を彩る色硝子



短冊をイメージした色ガラス
天の川をイメージしたランダムな窓・穴



4階 学生ラウンジ
2階 図書室
2階 学生ラウンジ
4F 教室
4階 多目的ホール

担当：諏訪 淳、吉田 康之、浅井 純平、水谷 潤